

中山道 和田宿～和田峠

BS …バス停 ★ …中山道石碑 24 …コンビニ 徒歩目安時間



中山道を選んだ理由？

皇女和宮降嫁の際、一行は当初東海道から江戸へ下る予定であったが、東海道筋では「川支(かわづかえ)」*にあう確率が高いこと、並びに東海道筋の箱根より東には異人が進行しているため、何かあってはいけないという理由で中山道に変更された。
*川止め。河川が増水した時、川越を禁じた事

永代人馬施行所 (国指定史跡)

江戸呉服町の豪商かせや与兵衛が幕府に寄付した金千両より、利子の半分50両が下付され、文政11年(1828)に設置された。11月から3月まで峠を越える旅人に粥と焚き火を、牛馬には年中小桶1杯の煎麦を施行した。

男女倉口

「歴史の道 史跡中山道」に残る未舗装の道が、ここから和田古峠へ続いている。

東餅屋茶屋跡

和田峠には唐沢・東餅屋・西餅屋・樋橋・落合に茶屋があり、旅人の休息所になっていた。東餅屋では5軒の茶屋があり、寛永年間より一軒に一人扶持(1日玄米五合)が与えられ、旅人の救助にもあつた。幕末には大名休息のための茶屋本陣も置かれた。

三十三体観音

かつて熊野権現社前に並んでいた観音菩薩像。旧道の遺構とともに毀損し、放置されていた。昭和48年(1973)の発掘調査により29体が確認され、ここに安置された。

和田峠 (古峠)

和田宿から下諏訪宿までは、5里18町(約22km)長い道程。しかも中山道最高地点(標高約1600m)にして五街道の中でも最高地点となる和田峠は急坂が多く、降雪の際はもとより雨や霧の日も旅人は難渋した。峠の頂上には御嶽山遙拝所碑や馬頭観音、賽の河原地蔵が建立されている。

和田宿本陣 (国指定史跡)

文久元年(1861)3月、和田宿の大火で焼失したが、同年11月の和宮降嫁を受けて再建された。明治維新以後は役場などに使用されていたが、昭和61年から5カ年をかけて往時の姿に復元された。出桁造りの間口12間・奥行き9間に及ぶ宿場最大の建造物。



下諏訪町

